

○大森 隆史（大森内科・アレルギーくりにつく）

〔目的〕 難治性アトピー性皮膚炎の治療にステロイド外用薬が多く使用されるが、長期治療では副作用も出現し、治療に困難をきたしている。このため、皮膚治療に限らずより根本的な解決を求め、体質の改善、アレルギー反応場の調整を基に、消毒、保湿、抗炎症、抗活性酸素を含めたスキンケアという総合的治療（波動免疫栄養療法）を検討した。

〔方法〕 体質改善に α -リノレン酸（シソ油）、乳酸菌製剤の利用、アレルギー反応場の調整には低周波波動化処理による波動水を用いてアレルギーブロックを行い、栄養療法としてタンパク質、ビタミン等の補給、スキンケアとして皮膚の代謝を亢進させる紫イペ、抗炎症作用、活性酸素除去作用のあるビフィズス菌エキスRODを始め、プラセンタエキス等を含むクリームにより皮膚の自己治癒力を高めた。

〔成績〕 体質改善、波動化処理により卵などによる食物アレルギーが軽快し、食事制限を緩和できた。栄養療法、スキンケアクリームによりかゆみ、発赤を含め炎症症状に改善傾向が認められた。

〔結論〕 ステロイド外用薬、抗アレルギー薬で治療されることが多い難治性アトピー性皮膚炎に波動免疫栄養療法を行うことによって治療効果の質的向上の可能性が期待できる。